

『藤農便り』 第42号

宮本茶園 宮本透（自然文化誌研究会運営委員）

2017年1月相模原市緑区佐野川で新規就農、茶栽培を始めて10年目に入りました。2018年から佐野川茶の相模原ブランド構築に取り組んできた藤野茶業部は残念ながら後継者を育てる事ができず、3月末に解散します。息子は「お父さんは十分頑張ったのだから、身体が不自由になる前に藤沢へ戻って来いよ」と言うのですが、まだ心は折れていないので宮本茶園が佐野川茶製品の生産・販売を担う準備を着々と進めています。藤野茶業部で取引契約している店舗と新規契約を結び、県農業技術センターの先生には今後の茶園経営を相談し、県農政課の農福連携事業と観光農園運営の研修会を受講し、相模原市の茶産地にふさわしい特色作りを考えています。

農福連携事業研修会では一緒に受講した相模原市農政課職員から市立障害者支援センター松が丘園を紹介され、佐野川の茶園管理作業に障害者雇用が可能かどうか担当職員と検討しています。高校生の頃、心身に障害を持つ人たちと一緒に農業がしたいと夢を語った宮本少年は学大特殊教育教員養成課程に入学したものの農業高校教員となり、夢はありませんでした。2026年は高校卒業50年、68歳になった宮本老人の新年抱負は佐野川茶の相模原ブランド構築事業に農福連携を加え、少年時代の夢を実現させる事とします。

・秋の茶仕事

昨年6月に怪我をした右足首は腫れが引かず、地下足袋が履けるようになったのは11月下旬でした。長靴を履いて右足を引きずりながらの茶園管理作業、秋肥撒布に例年の倍以上時間を使って秋の彼岸が過ぎ、徒長枝処理は諦めました。9月末に秦野市の高梨茶園を訪ね、県農業技術センター指導の電気柵設置作業を視察しました。里山の自然と調和してきめ細やかに管理された高梨茶園、新規就農時から私が目指す茶園管理のお手本です。茶園更新の幼木育成過程や鹿食害を防ぐ電気柵設置工事の工程を学ぶ機会をいただき、深く感謝しています。

猛暑の夏を引き継いで高温の日が続いた秋でした。10月21日県農業技術センターの茶園巡回指導と茶園共進会出品予選が行われました。部員の茶園はまだ芽が伸びており、秋整枝作業は気温が下がる11月に入ってから行う方がよいと日程目安が伝えられました。2019年まで耕作放棄されていた大洞茶園は藤野茶業部活動で再生、2024年から宮本茶園が利用権設定をして管理しています。この茶園が共進会出品茶園となり、2年連続の上位入賞を目指して準備を進めました。慎重に整枝作業をして、審査前日まで力ヤを敷き込み、根気よく枯枝やゴミを取り除きました。藤野茶業部員として最後の茶園共進会出品、佐野川茶農家の矜持を示す事ができました。

秋整枝作業が終わると千木良から大豆殻を運び、茅場のススキを刈って茶園畝間に敷き込みます。茶草場農法の土作り、ゴエモン牧馬チーム秋葉さん家族が援農に通ってくださっています。ススキを茶園に運んだ小学6年生の娘さんは「相模原市にお茶産地があるなんて初めて知った！」と驚いていました。佐野川茶相模原ブランド構築の取り組み、市内小中学校の子どもたちに伝える手立てを考えないといけません。



・藤野茶業部「佐野川茶の相模原ブランド構築」さがみはらSDGsアワード2025優秀賞受賞

相模原市にはSDGsの達成に向けた取り組みや地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組む企業・団体等を「さがみはらSDGsパートナー」に登録する制度があり、藤野茶業部は2023年7月登録証盾が交付されました。昨夏相模原市みんなのSDGs推進課から「さがみはらSDGsアワード2025」開催・取組募集案内メールをいただきました。藤野茶業部員の高齢化は深刻で2024年から佐野川茶生産農家は2軒となりましたが、佐野川茶相模原ブランド構築の取り組みは確実に成果を上げ、県茶品評会出品荒茶は2年連続上位入賞しています。8年間の取り組みが相模原市からどのような評価を受けるのか確認するため、エントリーシートを提出する事にしました。

限られた字数の中で審査員へ藤野茶業部活動を的確に伝える事は難しい作業で、耕作放棄茶園再生・管理作業の協同化・製品開発や学校給食食材提供・里山の環境保全と茶草場農法・市民グループや大学との連携等を書き綴りました。10月になってみんなのSDGs推進課より受賞決定の連絡があり、27日市立産業会館で表彰式が

開催され優秀賞をいただきました。取材を受けたタウンニュースや JA 神奈川つくり広報紙には記事が掲載され、佐野川茶を納めている千木良の寿麿庵からお祝いのお花が届き、表彰状・盾と一緒に藤野支店へ飾させていただきました。SDGs アワード受賞が藤野茶業部活動を市民に知っていただくきっかけになる事、期待しています！



・相模女子大学との産学連携事業

2024 年秋相模原女子大大学院社会起業研究科の授業「起業・事業開発演習」で藤野地区が抱える社会課題調査と解決策のプレゼンテーションが実施されました。佐野川茶をテーマに扱った 4 名の院生有志が佐野川茶普及プロジェクトを立ち上げ、藤野茶業部との産学連携事業が始まりました。新製品開発や認知度を高める情報発信等が検討され、11 月に開催される「相生祭」でノンアルコールカクテル「茶くてる」が販売される事になりました。

リーダーの鍋倉さんから一大早にメールで「茶くてる」試作・PRチラシ作成等の取り組み状況を共有し、10 月 13 日相模大野のサガミクスで開催された「茶くてる」試飲会に参加しました。お客様に PR チラシを使って佐野川茶を紹介し 40 袋用意した煎茶製品は完売、サガミクスお茶製品売上げ最高記録だそうです。11 月 3 日は大河原副部長と相模女子大「相生祭」を訪ねました。「茶くてる」販売ブースは大盛況で、鍋倉さんが取材された読売新聞記事は約 500 杯が販売されたと報じました。展示ブースでは 1 年間の取り組みが分かりやすく紹介されてました。相模女子大学との産学連携事業、藤野茶業部解散後も続く事を願っています。



・利用権設定をした農地の設定期間満了

昨年 7 月相模原農業委員会より「利用権設定をした農地の設定期間満了に伴う継続について」の通知が届きました。和田茶園の賃借権更新手続きは 9 月 26 日までに「農用地利用集積等促進計画要請申出書」を提出するよう記載されています。前号で「地主さんにお返ししようと考えています」と書きましたが、9 月になって更新手続きをしない事を地主さんに伝えました。話し合いの中で「耕作放棄せずにきちんと茶園管理できる人に引き継いでもらいたい」と要望され、「私がみちくさの会に入れていただき、皆さんと一緒に管理作業を続けます」と答えました。しかしながら、みちくさの会も会員の高齢化問題は藤野茶業部同様に深刻です。

上岩の花卉畑は吉田さんと古澤さん親子にロシアヒマワリ残渣を片付けてもらいました。穀物畑は悲惨な状態で、枯れた雑草は手が付けられません。年末の挨拶に地主さんを訪ね、地代を納める際に「6 月に右足を怪我してから畠の管理ができず、申し訳ありません。来年は賃借権の更新ができないかもしれません」と正直な気持ちを伝えました。耕作放棄地を増やさない努力、残念ですが私一人では担えなくなりました。



※佐野川に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476 e-mail : kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。